

TEKLYNX®

CODESOFT®

SETTING THE STANDARD



チュートリアル

ユーザーガイド

DOC-OEMCS2012-UG-JA-20/06/13

このガイドに含まれる情報は、契約の性質を有するものではなく、事前の予告なしに変更される可能性があります。

このガイドに記載されるソフトウェアは、ライセンス契約のもとで販売されます。ソフトウェアは、契約の条件に従う場合のみ、使用、コピーまたは複製することができます。

このガイドのいかなる部分も、**Teklynx Newco SAS** から書面での許可を受けずに、購入者の個人的な使用以外の目的で、いかなる形式や手段においても、複写、複製または送信することはできません。

©2013 **Teklynx Newco SAS**,

All rights reserved.

目次

本マニュアルについて	1
表記に関する原則.....	1
製品について.....	1
イントロダクション	3
はじめに.....	3
製品の説明.....	3
システム要件.....	4
インストール.....	4
ライセンスのアクティベーション.....	5
プログラムの起動.....	12
ユーザーインターフェース	13
メインウィンドウの説明.....	13
メニューバー.....	13
ワークスペース.....	13
ドキュメント.....	14
ステータスバー.....	14
標準ツールバー.....	14
タイトルバー.....	14
文字書式ツールバー.....	14
オブジェクトツールバー.....	15
表示ツールバー.....	15
作成ツールバー.....	16
データソースビューとオブジェクトビュー.....	16
ルーラー.....	17
回転ボタン.....	18
カラーパレット.....	19

作業環境の設定	21
プリンターの選択.....	22
プリンターの追加.....	23
作業環境のカスタマイズ.....	25
作業フォルダーの定義.....	29
ドキュメントのページ設定.....	30
固定オブジェクトを使用したドキュメントの作成	35
固定オブジェクトの作成と操作.....	35
テキストオブジェクトの作成.....	36
バーコードオブジェクトの作成.....	38
図形オブジェクトの作成.....	39
イメージの挿入.....	40
変数オブジェクトを使用したドキュメントの作成	41
データソースについて.....	41
データソースの作成.....	42
データベース データソース.....	44
テーブル参照 データソース.....	47
日付データソース.....	49
カウンター データソース.....	51
数式データソース.....	53
IF ファンクションに関する情報.....	55
フォーム データソース.....	56
自由データソース.....	59
変数オブジェクトの作成.....	61
印刷	65
強力な印刷エンジン.....	65
ドキュメントの印刷.....	65
シリーズでのラベル.....	67
各ラベルのコピー.....	67
各ページのコピー.....	67
まとめ.....	71
トラブルシューティング.....	72
注意事項	75

式の規約	75
予約語	79
予約語	79

表記に関する原則

本マニュアルは、以下の原則を用いて、さまざまなタイプの情報を区別しています。

- コマンドなど、インターフェース自体の用語は、**太字**で表記します。
- キーボードのキーは細字の大文字を四角で囲んで表記します。
例:「**SHIFT**キーを押してください。」
- 番号のついたリストは、実行する手順があることを示します。
- 接続詞「または」が段落の隣に表示された場合、特定のタスクを実行する別の手順があることを表します。
- メニューコマンドにサブメニューが含まれる場合、選択するメニュー名と、それに続くコマンドが太字で表記されます。
したがって、「**ファイル > 開く**を選択」の場合、**ファイル**メニューを選び、**開く**コマンドを選択します。

製品について

このマニュアルは、特定の製品について記載されたものではなく、製品間で共通の概念について説明しています。従って、記載されている一部の機能は、製品によってはご利用いただけない場合があります。

購入されたソフトウェアで利用できる機能については、製品のオンラインヘルプやカタログをご覧ください。

イントロダクション

はじめに

このたびは、最先端のラベルデザインアプリケーションをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

このラベルデザインアプリケーションを使用すると、複雑なラベルをすばやく作成し、編集することができます。

このアプリケーションはすべての自動識別ニーズを満たし、生産プロセスにシームレスに適合します。

本製品は、現在の市場において、複雑なバーコードのデータ入力、収集、編集をリアルタイムで行うすべての企業に、最も使いやすい、直感的に操作できるソリューションを提供します。

製品の説明

本製品に含まれるものは、以下のとおりです。

- インストール用 DVD
- ドキュメンテーション(ユーザーガイド、チュートリアル、データベースマネージャー ユーザーマニュアル)
- ライセンス契約と登録カード
- プロテクトキー:ソフトウェアキー(アクティベーションコード)またはハードキー(ドングル)

注意: ReleaseUS.htm ファイルには、ソフトウェアに関する最新情報が含まれます。この情報は、本マニュアルの情報よりも優先されます。

システム要件

アプリケーションを実行するために必要な、ソフトウェアとハードウェアの基本的な要件は、Windows®で実行する多くのアプリケーションと同様です。

- 以下の 32 ビットまたは 64 ビットの Windows オペレーティングシステム: XP、Vista、7、または 8
- 1 GB 以上の RAM
- 500 MB 以上のハードディスク空き容量(インストールオプションによる)
- 2 GHz 以上の CPU
- DirectX 9 以上に対応したビデオカード
- コンピューターの管理者権限のアカウント
- インターネットへの接続環境もしくは専用の USB ポート

注意: 互換性の問題が発生する可能性がありますので、このラベルデザインソフトウェアの旧バージョンがシステムにインストールされている場合は、すべてアンインストールしてください。

インストール

注意: このソフトウェアをインストールする前に現在作業中のデータを保存し、他のプログラムをすべて閉じてください。

インストールプログラムを実行する前に、ご利用のパソコンの構成をチェックします。

1. インストール用 DVD を正しいドライブに挿入してください。インストールウィンドウが表示されます。

この DVD が自動的に起動しない場合:

2. **スタート > 実行**を選択し、DVDドライブの文字を入力し、その後ファイル名 index.hta を入力します(例えば、D:\index.hta)。
3. インストールしたい製品を選択し、**インストール** ボタンをクリックして、画面に表示される指示に従って、進めます。

ソフトウェアのインストール

インストールプロセスを実行する前に、管理者権限をお持ちかどうかをご確認ください。

インストールしたいプログラム機能を選択し、次へをクリックしてください。

(通常はすべてを選択してインストールしてください。)



ライセンスのアクティベーション

このソフトウェアは、ソフトウェアキー(アクティベーションコード)またはハードウェアキー(dongle)を使用して動作させることができます。

dongleとは、ソフトウェアを起動する前に、ご利用のパソコンの平行ポートまたは USB ポートに差し込む小さな電子デバイスです。ハードウェアキーが必要なバージョンであるにもかかわらず、それが取り付けられていない場合は、プログラムは「評価」モードで実行されます。この場合、ラベルを保存および印刷することができません。

ソフトウェアキーとは、初めてソフトウェアを起動する時や、トライアルバージョンを実行している場合に、アクティベーションウィザードにより求められるアクティベーションコードです。トライアルソフトウェアキーを利用している場合は、製品のすべての機能を 30 日間、または起動回数 100 回までご利用いただけます。

注意:アプリケーションを開始する時にプロテクトキーが製品バージョンと一致しない場合は、必要な手順を説明するダイアログボックスが表示されます。

まず、ラベルデザインソフトウェアのインストールを実行し、その後、プロテクトキーをコンピューターで有効化または接続してください。

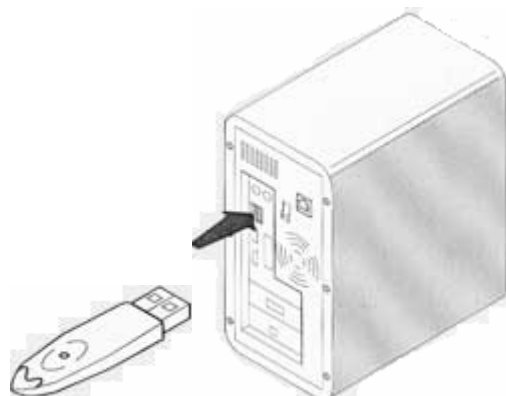
ハードウェアキープロテクション

ドングルを含むソフトウェアを購入された場合は、USB ポート用のドングルが付属されます。

USB キーの接続:

複数の USB ポートがある場合、どのポートを使用されても構いません。空いている USB ポートがない場合、USB 拡張ハブをご利用いただけます。

USB デバイスはホットスワップ可能です。つまり、パソコンを再起動しないで、いつでもバスに差し込んだり、外したりできます。



注意:ドライバーは、アプリケーションを実行中にインストールできます。しかし、変更を認識させるために、ラベルデザインソフトウェアを再起動する必要があります。

注意: USB ハードウェアキーは、Windows 95 および Windows NT4 のオペレーティングシステムに対応していません。

ドライバーキーの手動インストール

ドライバーキーを手動でインストールしたい場合は、以下の操作を行います。

1. **スタート** をクリックし、**ファイル名を指定して実行** をクリックします。
2. 以下のコマンドを入力して Enter キーを押下してください。

・**Windows 7 または 8 の 64 ビット版の場合:**

```
C:\program files (x86)\Teklynx\CODESOFT2012\Tools\Dongle\
HaspDinst.exe -i
```

・**32 ビット版の場合:**

```
C:\program files\Teklynx\CODESOFT2012\Tools\Dongle\
HaspDinst.exe -i
```

注意: ドライバーをインストールする前に、ラベルデザインソフトウェアと他のアプリケーションを閉じるようにお願いいたします。

ソフトウェア起動時のエラーメッセージ

ソフトウェアを起動した時にエラーメッセージが表示され、入力を促された場合、以下の項目をチェックしてください。

- **管理権限**… キーのインストールを適切に行うために、パソコンのローカル管理権限が必要です。この権限をお持ちではない場合は、ソフトウェアを起動した時にエラーメッセージが表示されます。この場合、ドライバーを手動でインストールしなければなりません。
- **ドライバーのインストール**… インストール中、問題が発生した場合、あるいはソフトウェアを起動した時にエラーメッセージが表示された場合は、手動でドライバーをインストールする必要があります。
- **キー**… 接続されたキーが、ラベルデザインソフトウェアで機能していることをチェックしてください。
- **ドライバーアップデート**… ドライバーが更新されていない可能性があります。更新を行うには、

<http://www.aladdin.com/support/hasp/enduser.aspx>

からダウンロードしてください。

ソフトウェアキープロテクション

ラベルデザインソフトウェアをインストールしたら、**アクティベーションウィザード**が起動し、ソフトウェアキーのプロテクトプロセスを開始します。

ソフトウェアキーのアクティベーション:

アクティベーションウィザードにおいて、**アクティベート**を選択し、**次へ**をクリックしてください。アクティベーションを実行するには、以下の4つの方法があります：**オンラインでのアクティベーション**、**USB キーを使用してアクティベーション**、**スマートフォンを使用してアクティベーション**、**Web サイトを使用してアクティベーション**。

注意:ソフトウェアをインストールしたコンピューターがインターネットに接続している場合、**[オンラインでのアクティベーション]**が自動的に選択されます。

• オンラインでのアクティベーション

いくつかのネットワークはプロキシサーバーにより保護されている場合があります。この場合は、IP アドレスを入力してインターネットに接続できるようにする追加のステップがあります。

1. **オンラインでのアクティベーション** を選択します。
2. 製品に付属する**シリアル番号**と**パスワード**を入力し、**次へ** をクリックします。
3. **ユーザー登録** フォームに情報を入力し、**次へ** をクリックします。
4. **終了**をクリックします。

注意: ソフトウェアをインストールしたコンピューターがインターネットに接続していない場合で、インターネットに接続している他のコンピューターを利用できる場合には、[USB キーを使用]をクリックしてアクティベーションを実行することができます。

- **USB キーを使用してアクティベーション**

1. 製品に付属する「シリアル番号」と「パスワード」を入力し、**次へ** をクリックします。
2. **USB キーを使用** を選択します。
3. アクティベーションに使用する外部記憶メディア (USB キーまたは外付けハードディスクなど) を選択し、**次へ** をクリックします。アクティベーションのためのファイルが選択したメディアにコピーされます。
4. メディアを取り外します。
5. インターネットに接続されている別のコンピューターにメディアを接続します。
6. **USBWizard.exe** を実行します (このファイルはメディアのルートに存在します)。ウィザードが開始されます。
7. アクティベートするライセンスを選択し、**次へ** をクリックします。
8. **ユーザー登録** フォームに情報を入力し、**次へ** をクリックします。
選択されたライセンスをアクティベートするための情報が正しく取得されたことを通知するメッセージが表示されます。
9. このコンピューターからメディアを取り外します。
10. ソフトウェアをインストールしたコンピューターにメディアを接続し、再び **USBWizard.exe** を実行します (このファイルはメディアのルート上に存在します)。

11. ウィザードには、ソフトウェアがインストールされているコンピューターでアクティベートできるライセンス情報が表示されます。
12. **次へ** をクリックします。
13. **終了** をクリックします。

注意: インターネットへの接続環境がない場合には、スマートフォンを使用して製品をアクティベートすることができます。

- **スマートフォンを使用してアクティベーション**

スマートフォンを使用してソフトウェアをアクティベートするためには、バーコードを読み取るためのバーコードスキャナアプリケーションが必要です。バーコードスキャナアプリケーションはアプリケーションストア／マーケットからダウンロードできます。このアクティベーションモードでは、スマートフォンのインターネット接続を使用します。

1. 製品に付属する「シリアル番号」と「パスワード」を入力し、**次へ** をクリックします。
2. **スマートフォンを使用** を選択します。
3. **ユーザー登録** フォームに情報を入力し、**次へ** をクリックします。
4. バーコードが表示されます。カーソルをバーコード上に移動して、ズームインします。
5. スマートフォンでバーコードスキャナアプリケーションを起動します。
6. スマートフォンでバーコードを読み取ります。
7. **続行** をクリックするか、スマートフォンでブラウザを開きます。
8. ソフトウェアアクティベーションの Web サイトが表示されます。この Web サイトから、ソフトウェアを登録し、アクティベートできます。すべてのフィールドに入力する必要があります。

9. **Submit** をクリックします。
10. Web サイトページの下部に「**検証コード**」と「**インストールコード**」が表示されます。必要があれば下スクロールしてください。
11. 「**検証コード**」と「**インストールコード**」をウィザードに入力します。
(大文字で入力してください。)
12. **次へ** をクリックします。
13. **終了** をクリックします。

- **Web サイトを使用してアクティベーション**

1. 製品に付属する「**シリアル番号**」と「**パスワード**」を入力し、**次へ** をクリックします。
2. Web サイトを使用 を選択します。
3. 製品に付属する「**シリアル番号**」と「**パスワード**」を入力し、**次へ** をクリックします。
4. この画面のリンク(<http://www.teklunx.eu/nsp/>)には、インターネットアクセスを使用して、異なるコンピューターからアクセスできます。インターネット接続を使用できる任意のユーザーがこの Web サイトに接続してアクティベーションを完了することができます。このサービスを利用するためには「**シリアル番号**」と「**パスワード**」、および「**ユーザーコード**(ウィザードに表示されます)」が必要です。
5. Web サイトに表示される**ユーザー登録** フォームに情報を入力し、**次へ** をクリックします。
6. **Submit** をクリックします。
7. 「**検証コード**」と「**インストールコード**」が、Web サイトに表示されます。
8. 「**検証コード**」と「**インストールコード**」をウィザードに入力します。
(大文字で入力してください。)

9. **次へ** をクリックします。
10. **終了** をクリックします。

プログラムの起動

1. **スタート > プログラム**を選択します。
2. インストールした時に指定したプログラムグループ名を選択します(デフォルトでは、アプリケーションの名前が設定されます)。

メインウィンドウが画面に表示されます。

ユーザーインターフェース

メインウィンドウの説明

本セクションでは、ワークセッションの最初に、メインウィンドウに表示される主なインターフェース要素の概要を説明します。

メニューバー

メニューバーにはファイル、編集、表示、オブジェクト、データソース、ツール、ウィンドウおよびヘルプが含まれています。

メニューを開くには

1. マウスの左ボタンでメニューをクリックします。
2. 次に必要なコマンドを選択します。

注意: キーボードを用いて、コマンドにアクセスするには、キーボードショートカットを使用します。`ALT` キーを押したまま、メニュー名またはコマンド名の下線付きの文字キーを押してください。

ワークスペース

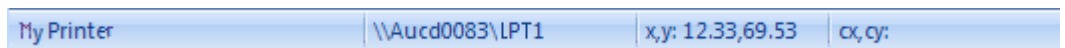
ワークスペースは、ルーラーとスクロールバーの間に位置している、ウィンドウの中央部分です。それは、ドキュメントの物理的な境界を設定するフレームや、印刷するオブジェクト、印刷する必要がないコメントやオブジェクトを挿入する、印刷不要エリアが含まれます。

ドキュメント

新しいセッションを開くと、プログラムでは、ウィンドウの上部左端にフレームを表示します。このフレームは、印刷するドキュメントの物理的な境界を表します。オブジェクトをこのフレーム内に配置し、ドキュメントを作成します。

ステータスバー

ウィンドウの下部にあるステータスバーには、選択されたプリンターの名前、接続されている通信ポート、マウスポインターの x y 座標、または選択されたオブジェクトの位置座標とサイズが表示されます。



標準ツールバー

これらのツールバーを使用すると、メニューを使用するより速く、ルーチンを実行することができます。



ツールを選択するには

ツールに対応するボタンをクリックします。

タイトルバー

タイトルバーは、ソフトウェアの名前と現在のドキュメントの名前、または新しいドキュメントが作成された場合 "Documentno" を表示します。マウスを使用して、ウィンドウを移動することができます。

文字書式ツールバー

このツールバーを使用して、テキストまたは段落のフォーマット、すなわちフォント、文字サイズ、スタイルオプション、テキストの折り返しなどを変更できます。



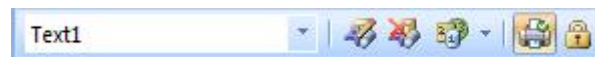
書式を変更するには

1. ドキュメントのオブジェクトを選択します。
2. 必要とされるオプションをクリックします。

注意:これらのオプションはすべて、文字プロパティのダイアログボックスでもアクセスできます。

オブジェクトツールバー

オブジェクトツールバーは、選択されたオブジェクトの名前を表示し、そのプロパティにアクセスすることができます。



表示ツールバー

表示ツールバーは、多くの表示オプションを提供します。














表示モードを変更するには、必要な表示モードをクリックします。

ボタン	ツール名	用途
	変数名	変数の名前を表示します。
	サイズ	変数の最大サイズを表示します。
	変数値	変数の値を表示します。
	フォーム	フォームを表示します。
	ビュー	データソースとオブジェクトを表示します。
	ズーム	オブジェクトの内容を拡大または縮小できます。

注意:これらのすべてのオプションは、表示メニューからアクセスすることもできます。

作成ツールバー

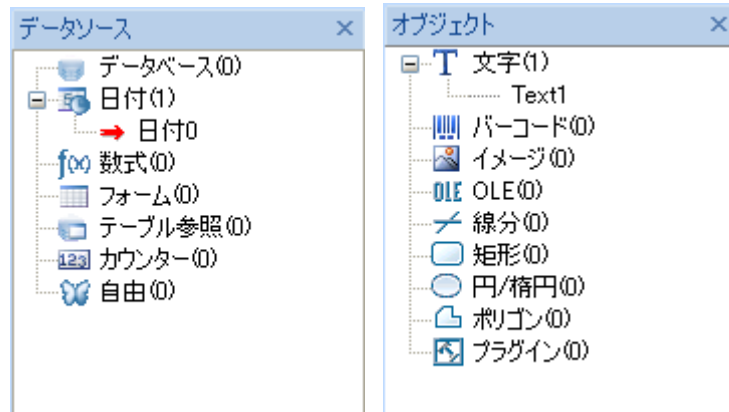
作成ツールバーは、多くのボタンから構成されています。それぞれのボタンは、オブジェクトの作成および操作を行うツールとなります。

ボタン	ツール名	用途
	選択ツール	操作対象のオブジェクトを選択します。
	テキスト	固定または変数テキストを作成します。
	バーコード	固定または変数バーコードを作成します。 ウィザードを用いて GS1, HIBC および Maxicode を作成します。
	イメージ	固定のイメージを挿入します。
	外部オブジェクト	外部オブジェクトを挿入します。例えば、表計算プログラムの表などを挿入します。
	線分	水平または垂直ラインを描きます。
	矩形	長方形または正方形を描きます。
	円/楕円	円または楕円を描きます。
	ポリゴン	多角形を描きます。
	斜線	斜線を描きます。
	R 付き矩形	角が丸い矩形を描きます。
	図形オブジェクト	すぐに使える図形をドキュメントに挿入します。
	プラグイン	TextArt、ListFields、OCXFields および RichText フィールドを作成します。

データソースビューとオブジェクトビュー

データソースビューは、データソースと、作成されている変数、およびそれらの数を表示します。変数オブジェクトは、ドラッグ & ドロップするだけで、ドキュメントに挿入することができます。コンテキストメニューを使用すると、変数プロパティの追加、削除、変更を行うこともできます。

オブジェクトビューは、作成されたオブジェクトを種類ごとに表示します。このタブを使用して、オブジェクトを選択したり、位置を変更したりすることができます。



キーボードの上下矢印キー \uparrow 、 \downarrow を使用すると、オブジェクトツリーを上下に移動することができます。左右矢印キー \leftarrow 、 \rightarrow を使用すると、リストを展開・折り畳むことができ、各データソースに関連する変数リストや各カテゴリーについて利用できるオブジェクトのリストを表示します。

データソースについて

データソースには、同じソースのデータを与えられる変数のリストが含まれます。

データソースを選択すると、必要なデータが存在する場所や、データの種類を知ることができます。データは、内部で生成されるデータ(日付、カウンター)と、アプリケーションに外部から指定するデータ(データベース、フォームを使用した直接データ入力)があります。


データソース表示で利用できる、さまざまなデータソースは以下のとおりです。**データベース、日付、数式、フォーム、テーブル参照、カウンターおよび自由。**

ルーラー



ルーラーを使用すると、マウスの位置を表示し、さまざまなオブジェクトをドキュメントに正確に配置することができます。**ツール > オプション > 表示** コマンドを使用して、インチまたはミリメートルのいずれかの単位で設定できます。

- 水平ルーラーの左半分をダブルクリックすると、表示スケールを縮小します。
- 水平ルーラーの右半分をダブルクリックすると、表示スケールを拡大します。
- 水平ルーラーを右クリックすると、**ズーム**コンテキストメニューを表示します。
- 垂直ルーラーをダブルクリックすると、グリッド設定ダイアログボックスを表示します。
- 垂直ルーラーを右クリックすると、**回転**コンテキストメニューを表示します。

回転ボタン

ドキュメントの上部左端にある  をクリックすると、画面のドキュメントを 90°、180°、270°または 360°回転させることができます。画面の回転は単なる表示機能であり、印刷に影響を与えません。

ドキュメントを回転するには

- マウスの左ボタンで  をクリックすると、ドキュメントを左に 90°回転できます。
- マウスの右ボタンで  をクリックすると、ドキュメントを右に 90°回転できます。

注意:表示 > 回転 コマンドを使用するか、または垂直ルーラーをマウスの右ボタンでクリックし、コンテキストメニューを使用すると、同じドキュメントの回転効果が得られます。

カラーパレット

カラーパレットは、ワークスペースの下部に表示されます。これを使用すると、ドキュメント内のオブジェクト(テキスト、バーコード、図形など)の色を変更することができます。



オブジェクトの色を変更するには

1. 色を変更したいオブジェクトを選択します。
2. マウスの左ボタンで、パレットの色をクリックすると、テキスト、線分または図形の前面色を変更できます。
3. マウスの右ボタンで、パレットの色をクリックすると、背景色を変更できます。

注意: ×ボタンを使用すると、オブジェクトから背景色を削除することができます。

オブジェクトの**プロパティ**ダイアログボックスを使用して、色を変更することもできます。

1. オブジェクトをダブルクリックします。**プロパティ**のダイアログボックスが画面に表示されます。
2. **文字** タブで色を選択します(前景または背景)。

作業環境の設定

ドキュメントの作成を開始する前に、まず作業環境を設定する必要があります。

最初のステップ は、ラベルを印刷するプリンターを選択します。すべてのプリンターが同じ機能を備えているわけではありませんので、選択されたプリンターのモデルによって、利用できるオプションが異なります。

次のステップ は、作業環境のオプションを選択します。例えば、インターフェース言語、単位などです。利用できるすべてのオプションについては、本章で後ほど見ていきます。

最後のステップ は、ドキュメントのページ設定です。例えば、ドキュメントのサイズ、方向、マージンなどを定義します。

ラベルデザインソフトウェアを使用すると、さまざまなプリンター、ソフトウェアで提供されるドライバーで印刷することができます。また会社のネットワークやご利用の PC のローカルにインストールされた Windows プリンターで印刷することもできます。


ドキュメントを作成し始める前に、プリンターを選択する必要があります。これは、プリンターの選択により、ページ設定オプションや、さまざまな文字フォントの利用などが影響されるからです。

プリンターの選択

プリンターの選択 ダイアログボックスは、以下の方法でアクセスできます。

コマンド: **ファイル > プリンター選択**

または

 ボタンをクリックします。

または

F5 キーを押します。

プリンターは、ドキュメントを作成する前に選択する必要があります。プリンターの選択は、ページ設定オプション、さまざまなフォントの使用などに影響を与えます。

Windows ドライバーとネイティブドライバー:

ラベルデザインソフトウェアは、広範囲の産業用バーコードプリンターで使用できます。このための専用のドライバー(ネイティブドライバー)を搭載しています。また、ローカルの PC やネットワーク上にインストールされた任意の Windows プリンターにも印刷することができます。


Windows プリンターとは、オペレーティングシステムにインストールされている、すべてのプリンターを表します。一般的に、オフィスのプリンター、レーザープリンターなどがあります。印刷ジョブは、Windows スプーラ(ジョブキュー)に送信されます。

ネイティブドライバーは、ラベルデザインソフトウェアで提供されます。これらのプリンターによる印刷は、ソフトウェアで直接管理されます。

プリンターを選択するには

1. **ファイル > プリンター選択...**


または

 ボタンをクリックします。

または

F5 キーを押下します。

2. リストからプリンターを選択します。
3. **OK** ボタンをクリックします。

注意: アプリケーションで提供されるドライバーは、 アイコンで識別できます。

プリンターの追加

ファイル > **プリンター選択** コマンドを選択し、**追加** ボタンをクリックすると、**プリンター追加** ダイアログボックスにアクセスできます。


このダイアログボックスを使用すると、ソフトウェアで提供されているプリンタードライバーを追加することができます。

注意: Windows プリンターを追加するには、オペレーティングシステムのコントロールパネルを使用しなければなりません。

プリンターを追加するには

1. ファイル > **プリンター**

または

 ボタンをクリック

または

F5 キーを押下します。

2. **追加** ボタンをクリックします。
3. **モデル** リストにおいて、メーカーグループまたはプリンターのモデルを選択します。
4. 出力ポート(シリアル、パラレルまたはファイル)を選択し、**OK** ボタンをクリックします。

注意: プリンターのメーカーグループの隣にあるプラス記号 (+) をクリックすると、さまざまなモデルを表示できます。

注意: 数多くのメーカーの様々なモデルのプリンターを追加することができますが、既に製造／販売が終了しているモデルやメーカーがサポートを終了しているプリンターも含まれています。それらは過去に作成したラベルファイルとの互換性を保つ為だけに残っています。現在、サポートしているプリンターは弊社の Web サイトでご確認ください。

各種ポート:

ポート名	用途
COMx	シリアル通信ポートを指定します。プリンターを接続するシリアルポート番号を選択します。
LPTx	パラレル通信ポートを指定します。プリンターを接続するパラレルポート番号を選択します。
File	ファイルに出力する場合は、 ファイル を選択します。

(例) LPT1 で Zebra 140 を追加

1. **ファイル > プリンター選択**を選択します。
2. **追加** ボタンをクリックします。
3. **モデル** リストにおいて、Zebra グループを選択します。
4. 左側のプラス記号(+)をクリックしてモデルを展開し、Zebra 140 を選択します。
5. LPT1 ポートを選択し、**直接制御** のチェックを外し、**OK** ボタンをクリックします。

作業環境のカスタマイズ

本製品には、作業環境をカスタマイズする多くのオプションがあります。

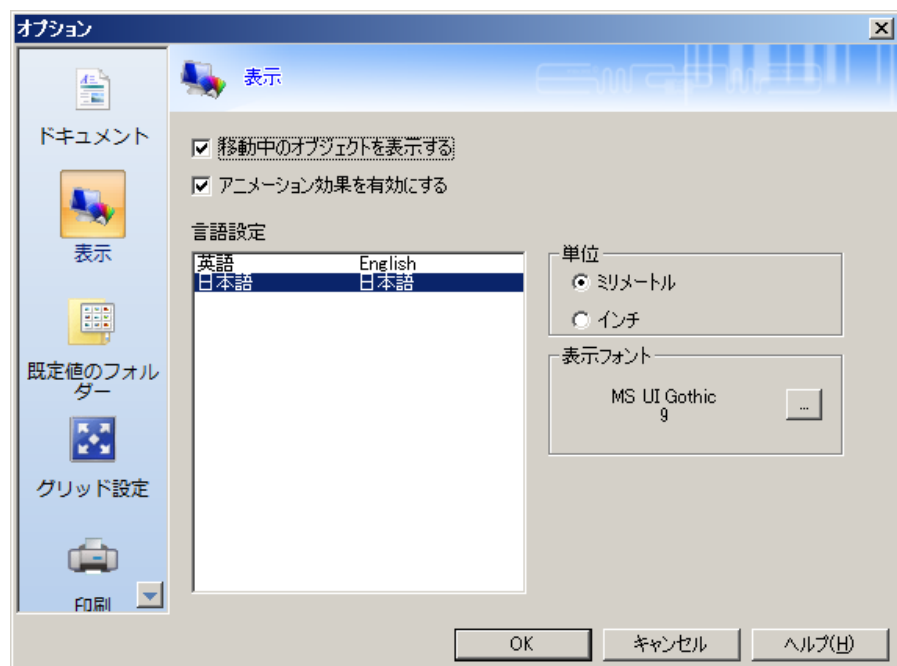
オプションでは、インターフェース言語、単位、ダイアログボックスの表示フォント、作業フォルダー、通貨換算レートを変更することができます。

インターフェース言語の変更

ユーザーインターフェースはさまざまな言語でご利用いただけ、簡単に変更することができます。（日本語版で使用できる言語は日本語と英語のみです。）

インターフェース言語を変更するには

1. ツール > オプションを選択します。
2. 表示 タブをクリックします。



3. 言語設定リストから希望する言語を選択します。
4. OK ボタンをクリックします。

注意: OK ボタンをクリックすると、すべてのメニュー、コマンド、画面のメッセージが選択された言語で表示されます。（オンラインヘルプや、開く、名前を付けて保存 などの Windows ダイアログボックスを除く）

表示オプションと作業環境の変更

インターフェース言語、単位、ダイアログボックスの表示フォントを変更できます。これらの選択は、**表示** タブを使用して行います。

表示 タブにアクセスするには、**ツール > オプション** を選択します。


測定単位の選択

単位は、ミリメートルまたはインチを使用できます。単位の選択は、ルーラーの目盛りを変更します。

測定単位を選択するには

1. **ツール > オプション** を選択します。
2. **表示** タブを選択します。
3. 単位を選択します。
4. **OK** ボタンをクリックします。

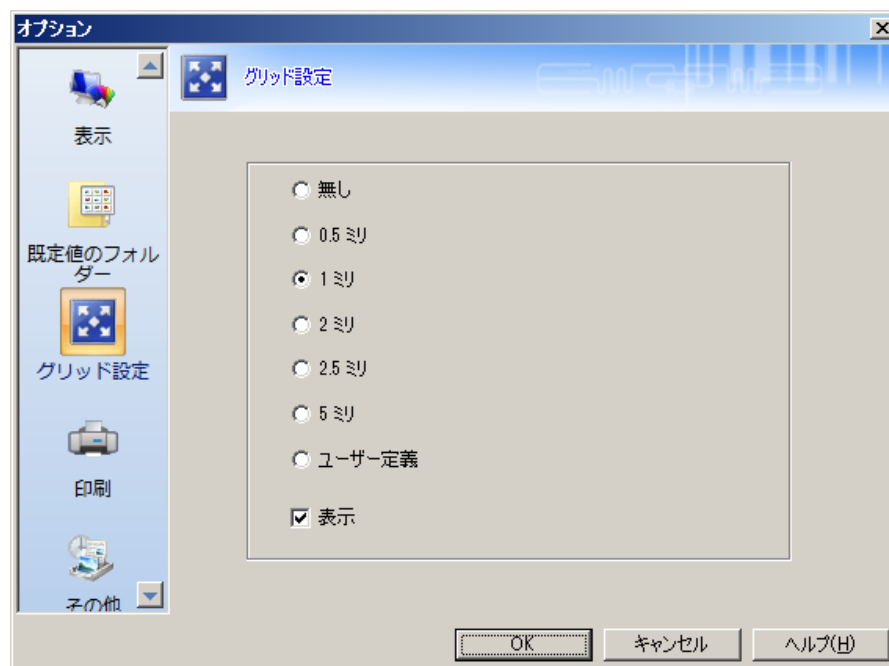
ダイアログボックスの表示フォントを変更するには

1. **ツール > オプション** を選択します。
2. **表示** タブをクリックします。
3. 表示フォントフィールドにおいて、 ボタンをクリックします。
4. フォントを選択します。
5. **OK** ボタンを選択します。

グリッドスケールを変更するには

オブジェクトの整列に使用されるグリッドスケールは、変更または無効にすることができます。

1. ツール > オプション を選択します。
2. グリッド設定 タブをクリックします。
または
垂直ルーラーをダブルクリックして、グリッド設定 タブに直接アクセスします。



3. 必要なグリッドスケールを選択します。
4. OK ボタンをクリックします。

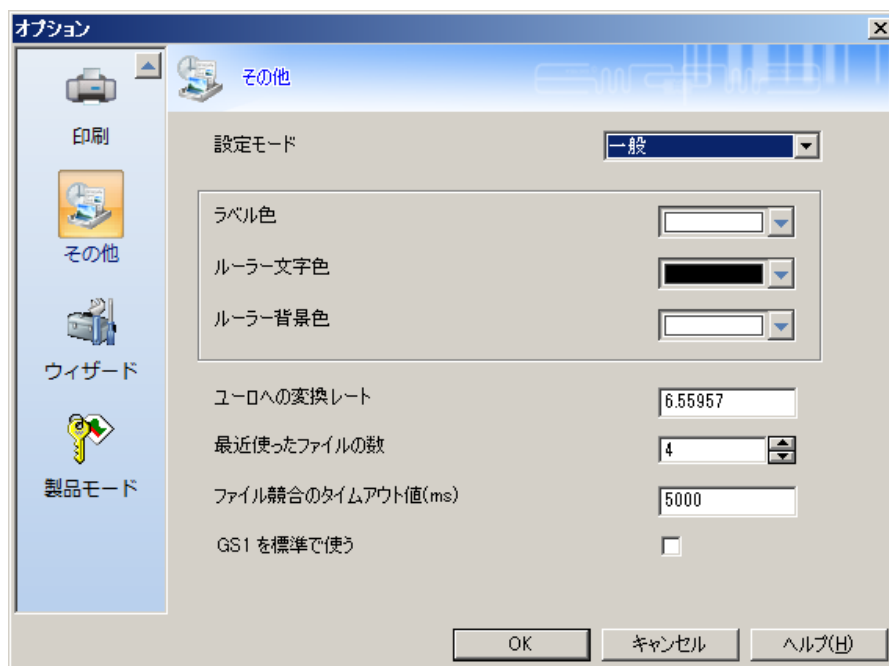
注意:グリッドスケールで使用される単位は、表示タブで定義できます。

換算レートを定義するには

ユーロへの変換レートボックスで定義される換算レートは、eurocurrency および currencytoeuro の式で使用されます。

1. ツール > オプションを選択します。

2. その他のタブをクリックします。



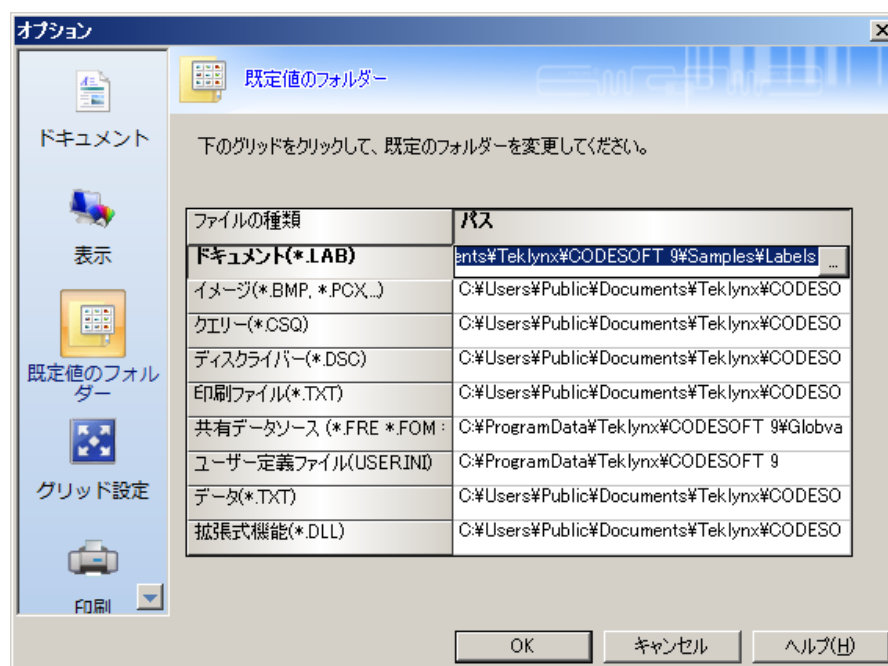
3. ユーロへの変換レート ボックスに換算レートを入力します。

注意: デフォルトの換算レートは、フランス・フランとユーロ間のレートとなります。

作業フォルダーの定義

ソフトウェアを起動した後、はじめて開くや名前を付けて保存 ダイアログボックスを開くと、マイドキュメント フォルダがデフォルトの作業フォルダーとして選択されます。

1. ツール > オプション を選択し、規定値のフォルダー タブを選択します。



2. パスのセルをクリックし、デフォルトの作業フォルダーを変更します。

または



ボタンをクリックし、新しいデフォルトの作業フォルダーを選択します。パスは、ディレクトリ で変更します。

3. **OK** ボタンをクリックします。

ドキュメントのページ設定

ドキュメントのテンプレートは、ページ設定ダイアログボックスで作成し、変更できます。

ドキュメントのページ設定は、ページサイズ、印刷方向、1行あたりのラベル数と1列あたりのラベル数、ドキュメントサイズ、マージン、ラベル間ギャップから構成されます。お客様独自のドキュメントテンプレートを作成し、後で使用するために保存することができます。

注意:ドキュメントのストックを作成する前に、まずドキュメントの印刷に使用するプリンターのモデルを選択しなければなりません。


ファイル > プリンター選択 を選択します。

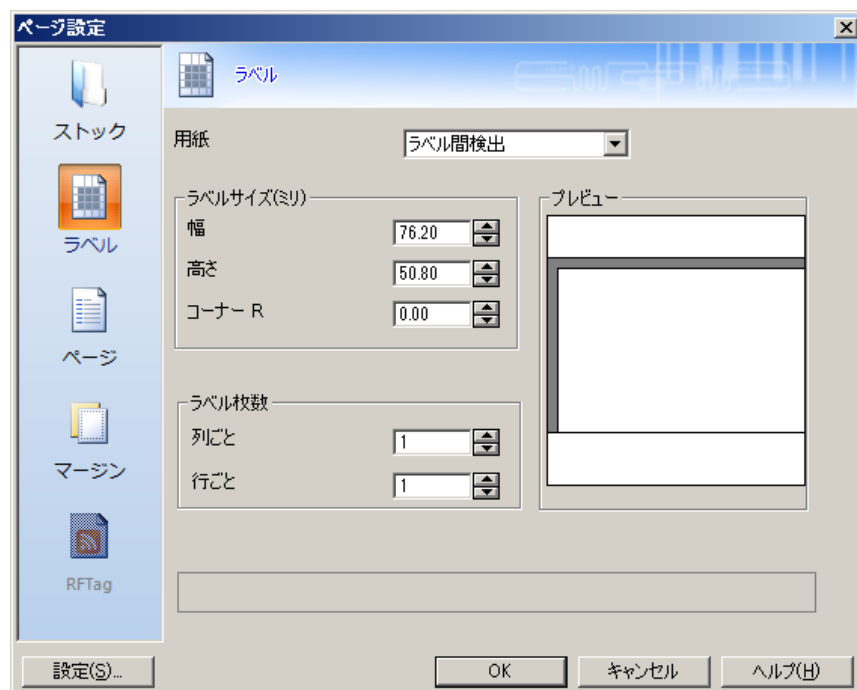
ページフォーマットは、ページ設定ダイアログボックスを使用して、定義します。これにより、プリンター設定も更新されます。このソフトウェアは、Windows のプリンター設定 ダイアログボックスで定義されるページ設定を使用しません。

ページ設定ダイアログボックスにアクセスするには

1. ファイル > ページ設定 を選択します。

または


 ボタンをクリックします。



2. **ラベル** タブをクリックし、ラベルのサイズと枚数を入力します。
3. **ページ** タブをクリックし、ページサイズと向きを選択します。
4. **マージン** タブでマージン値を入力します。
ストック タブを使用すると、カスタマイズしたストックを保存することができます。
5. **OK** ボタンをクリックします。

注意: 入力されたパラメーターがストックのサイズに対応していない場合、エラーメッセージが表示されます。

(例)ページ設定とカスタムストックの作成

1. ドキュメントを新規に作成します。
2. 一般的な Windows プリンターを選択します。
3. **ファイル > ページ設定** を選択します。
または
 ボタンをクリックします。
4. **ラベル** タブをクリックし、以下の値を入力します。
 - 幅と高さ: 30
 - コーナーR: 0
 - ラベル枚数:
 - 列数: 2
 - 行数: 3
5. **ページ** タブをクリックし、以下の値を選択します。
 - **自動サイズ:** チェック
6. **マージン** タブをクリックし、以下の値を入力します。


- **マージン:**
 - 左: 10
 - 上: 10
- **間隔:**
 - 行間隔: 5
 - 列間隔: 5

7. **ストック** タブをクリックし、以下の値を入力します。

- **種類:** Family
- **名前:** Layout1

8. **OK** ボタンをクリックします。

(例)CD ジャケットのデザイン

1. ドキュメントを新規作成し、**FRONT** という名前を付けます。
2. **プリンター** を選択します。
3. **ツール > オプション** から、**表示** タブをクリックし、単位として**ミリメートル** を選択します。**OK** ボタンをクリックします。
4. **ファイル > ページ設定** を選択します。
または
 をクリックします。
5. **ラベル** タブをクリックし、以下の値を入力します。
 - **幅および高さ:** 120
 - **コーナーR:** 100
 - **ラベル枚数:**
 - **列数:** 1
 - **行数:** 2
6. **ページ** タブをクリックし、以下の値を選択します。

- 用紙サイズ: A4,
- 向き: 縦

7. **マージン** タブをクリックし、以下の値を入力します。

- **マージン:**
 - 左: 40
 - 上: 10
- **間隔:**
 - 行間隔: 15

8. **ストック** タブをクリックし、以下の値を入力します。

- **種類:** Jacket,
- **名前:** CDx2.


9. **OK** ボタンをクリックします。

注意:この例では Windows プリンターを使用しています。熱転写プリンターを使用すると、ページ設定を行う際にエラーメッセージが表示される場合があります。その場合は、サイズを修正してください。

カスタマイズしたストックの削除

作成したストックが不要になった場合、削除することができます。

カスタマイズしたストックを削除するには

1. **ファイル > ページ設定** を選択します。
または
 ボタンをクリックします。
2. **ストック** タブにおいて、**種類** と **名前** リストからストックを選択します。
3. **削除** ボタンをクリックします。

固定オブジェクトを使用したドキュメントの作成

固定オブジェクトの作成と操作

固定オブジェクトを作成するということは、ドキュメントにオブジェクト(テキスト、バーコード、イメージ、線、矩形、円)を挿入するということです。

オブジェクトの作成

次の方法により、素早くかつ簡単にオブジェクトをドキュメント内に作成することができます。

- **作成 ツールバー**

または

- **オブジェクトメニュー**

注意: 作成されたそれぞれのオブジェクトは、アプリケーションによって自動的に名前が付けられます。オブジェクトを選択すると、オブジェクトビューおよびオブジェクトツールバーにその名前が表示されます。

次のオプションの1つを使用してオブジェクトを作成することができます。

- **直接モードで作成**
 1. ドキュメントに挿入したいオブジェクト(テキスト、バーコード、イメージなど)を作成ツールバーで直接クリックします。
 2. オブジェクトを配置したい場所をラベル上でクリックします。

または

- **ガイドモードで作成**

1. 作成ツールバーの対象オブジェクトボタン右横の▼ボタンをクリックします。実行可能なアクションを示すサブメニューが表示されます。
2. 適切なアクションを選択します。
3. オブジェクトを配置したい場所をラベル上でクリックします。

オブジェクトの修正

次の操作によりオブジェクトを変更することができます。

- ツールバー
- オブジェクトのダブルクリック
- オブジェクトビュー内で対象オブジェクトを右クリック > プロパティ

ドラッグ&ドロップ機能やオブジェクトの右クリック、そしてプロパティの選択は現在のタスクを実行するために使用されます。現在のタスクとは、テキストまたは Windows によってサポートされているグラフィックファイルをドラッグ&ドロップしてテキストあるいはイメージオブジェクトを作成すること、または、データソースビューでデータソースをドラッグ&ドロップして変数オブジェクトを作成することを含みます。項目をドラッグ&ドロップするには、項目をクリックし、マウスの左ボタンを押し続けながら希望する場所まで移動し、ボタンを離します。

テキストオブジェクトの作成

テキストオブジェクトで、1文字、1つの単語、またはパラグラフ全体を作成することができます。

文字スタイルとパラグラフフォーマットは、文字書式ツールバーまたはテキストダイアログボックスを使用して定義します。

テキストオブジェクトを作成するには:

1. 作成ツールバー上で **T** ボタンをクリックします。
または
オブジェクト>テキスト を選択します。
2. ワークスペース内または修正するテキストをクリックします。
または
ワークスペース内でクリックし、そのままドラッグしてフレームを作成します。
3. テキストを入力します。
テキストのスタイルはテキストダイアログボックスで定義することができます。

テキストダイアログボックスを開くには:

- テキストオブジェクトの枠をダブルクリックします。
- テキストオブジェクトを選択し、**オブジェクト>プロパティ** を選択します。
- オブジェクトビュー内でテキストオブジェクトをダブルクリックします。


(例)CD ジャケットの作成:テキストの挿入

1. 文字の作成ツールボタンをクリックします。
2. ワークスペース内をクリックし、“Volume:”と入力します。
3. テキストを選択し、枠をダブルクリックします。
4. 以下の値を入力します。
 - フォント: Arial
 - 高さ: 10 ポイント
5. OK ボタンをクリックします。
6. 上記の操作を繰り返して、“Conducted by:”を挿入します。

バーコードオブジェクトの作成

バーコードダイアログボックスを使用して、バーコードシンボルの選択、属性の定義、そしてコード化するメッセージを入力します。

バーコードオブジェクトを作成するには:

1. 作成ツールバー上で  ボタンをクリックします。
または
オブジェクト > バーコード を選択します。
2. ワークスペース内をクリックします。
バーコードダイアログボックスが表示されます。
3. バーコードタブでバーコードを選択します。**プリンター**と**グラフィック**を選択することができます。
4. プリンター内蔵のバーコードをリスト表示するには**プリンター**をクリックします。
または
ソフトウェアによって生成されるバーコードをリスト表示するには**グラフィック**をクリックします。
5. 必要に応じてバーコードの詳細(高さ、細バー幅、比率、チェックキャラクター)を定義します。
6. **データフィールド**にコード化するデータを入力します。
7. **OK** ボタンをクリックします。


注意: すべてのプリンターが必要なバーコードを搭載しているわけではありません。そのような場合は、グラフィックを選択すればバーコードを印刷することができます。この場合のバーコードはグラフィックスとしてプリンターに送られますので、印字速度は遅くなります。

図形オブジェクトの作成

線分の描画

下記と同じプロセスを使用して線分、円／楕円、矩形、その他の図形を描くことができます。

線分を描くには:

1. 作成ツールバー上で  ボタンをクリックします。
または
オブジェクト>図形>直線 を選択します。
2. ワークスペース内をクリックします。
3. マウスの左ボタンを押したまま、マウスを動かして線を描きます。

(例)CD ジャケットの作成: 円の描画

1. 円／楕円の作成ツールボタンをクリックします。
2. ワークスペース内をクリックします。
3. マウスの左ボタンを押したまま **SHIFT** ボタンを押し、マウスを動かして円を描きます。
4. 作成した円をマウスの右ボタンでクリックし、表示されたメニューから**プロパティ**を選択します。
5. 一般タブを表示し、**位置とサイズ**の幅と高さ欄に下記の値を入力します。
 - 幅および高さ: 20
6. **OK** ボタンをクリックします。
7. **オブジェクト>位置合わせ>ドキュメントの横中央、およびオブジェクト>位置合わせ>ドキュメントの縦中央**をクリックして、ジャケットの中央に揃えます。


8. ロックボタンをクリックしてオブジェクトをロックします。

イメージの挿入

ラベルにイメージや会社のロゴを挿入することができます。

多くのグラフィックフォーマットを挿入することができます： bmp、dib、dxf、emf、
fmf、eps、fpx、img、gif、jpg、pcd、pcx、dcx、png、rle、tga、tif、wmf、wpg など。

イメージを挿入するには:

1. 作成ツールバー上で  ボタンをクリックします。
または
オブジェクト>イメージ を選択します。
2. ワークスペース内をクリックします。
イメージ選択ダイアログボックスが表示されます。
3. ファイル参照タブを選択します。
4. 挿入するイメージファイルを選択します。
5. OK ボタンをクリックします。

注意: イメージのプレビューを表示するには、プレビュー表示にチェックを入れます。

変数オブジェクトを使用したドキュメントの作成

データソースについて

データソースには、数種類のデータソースからなる変数がリストされています。データソースは、データベースデータソース以外は、カテゴリとサブカテゴリに分けることができます。

データソースを選択すると、必要とされるデータがどこにあり、それがどのデータタイプであるかが示されます。データは、アプリケーション内部で生成されるデータ(数式、日付、カウンター)と、アプリケーションに外部から指定できるデータ(データベース、フォームを使用した直接入力)に大別できます。

データソースビューまたはメニューで利用可能なデータソースは、以下のとおりです。

データソース	内容
データベース	データベースに接続することができます。
日付	日付または時刻を挿入することができます。
数式	ドキュメント内で数式を作成することができます。
フォーム	印刷時にデータを手入力することができます。
テーブル参照	データベースの検索結果を追加することができます。
カウンター	独自に増減する値を挿入することができます。
自由	このデータソースは、外部生成／内部生成されないデータによって構成されます。このデータソースは、データソース間で値を相互参照するための中間変数として使用することができます。

データソースの作成

データソースを使用すると、例えば、アプリケーションの外部のデータ、演算データ、コンピューターの日付システムなどを使用することができます。これらの変数に関連する値は、さまざまなデータソースから提供されます。

以下の方法でデータソースを作成できます。


データソースビュー

1. データソースビューにおいて、データソースの 1 つを右クリックします。
2. ポップアップメニューから、**追加**を選択します。

データソースメニュー

1. データソース メニューをクリックします。
2. データソースの 1 つを選択します。
3. **追加**をクリックします。

ツールバー

1. ツールバーの  をクリックします。
2. 必要な データソースを選択します。
3. サブメニューで、**追加**を選択します。

それぞれの作成モードについて

- 作成したデータソースは、選択されたデータソースの下に自動的に表示されます。
- アプリケーションにより、データソースにデフォルト名が付けられます。

注意: 括弧 {} は変数名に使用できません。

これは、データベース データソースからの変数を除いて、すべてのデータソースに適用されます。データベース変数を作成するには、クエリーを作成する必要があります。

- データベース データソース以外は、選択されたデータソースの下にカテゴリとサブカテゴリを作成することができます。

注意: カテゴリとサブカテゴリを作成するためには、データソースを右クリックし、**カテゴリの追加**を選択します。

データベース データソース

コマンド: データソース > データベース > クエリーの作成と修正

データベース データソースには、クエリーまたは ASCII テーブルからのデータにより生成された変数が含まれます。

注意: 変数名には、生成したフィールドの名前がそのまま使用されます。データベース変数は、データベースのフィールド名とリンクしているため、変数名を変更することはできません。

クエリーの作成

コマンド: データソース > データベース > クエリーの作成と修正


1. データソースの選択リストから、データソースを選択します。

注意: 新しいデータソースの場合、**新規...** ボタンをクリックします。これにより、ウィザードを使用するか、ODBC または OLEDB データソースを選択することができます。


デフォルトでは、**標準作成モード**が有効ですが、クエリーを作成する場合は、**高度な SQL 作成モード**を使用することができます。

標準作成モード

2. **テーブルの選択** リストにおいて、検索を実行するテーブルを選択します。
テーブル名を含める オプションを使用すると、フィールドのリストにテーブル名を表示することができます。
3. **選択フィールドリスト**において、選択したテーブルに関するフィールドを選択します。

注意:  をクリックすると、すべてのフィールドを選択できます。

ヒント: ラベルで使用するフィールドのみを選択することをお勧めします。これにより、データベースとの通信量が減少し、処理速度が速くなります。

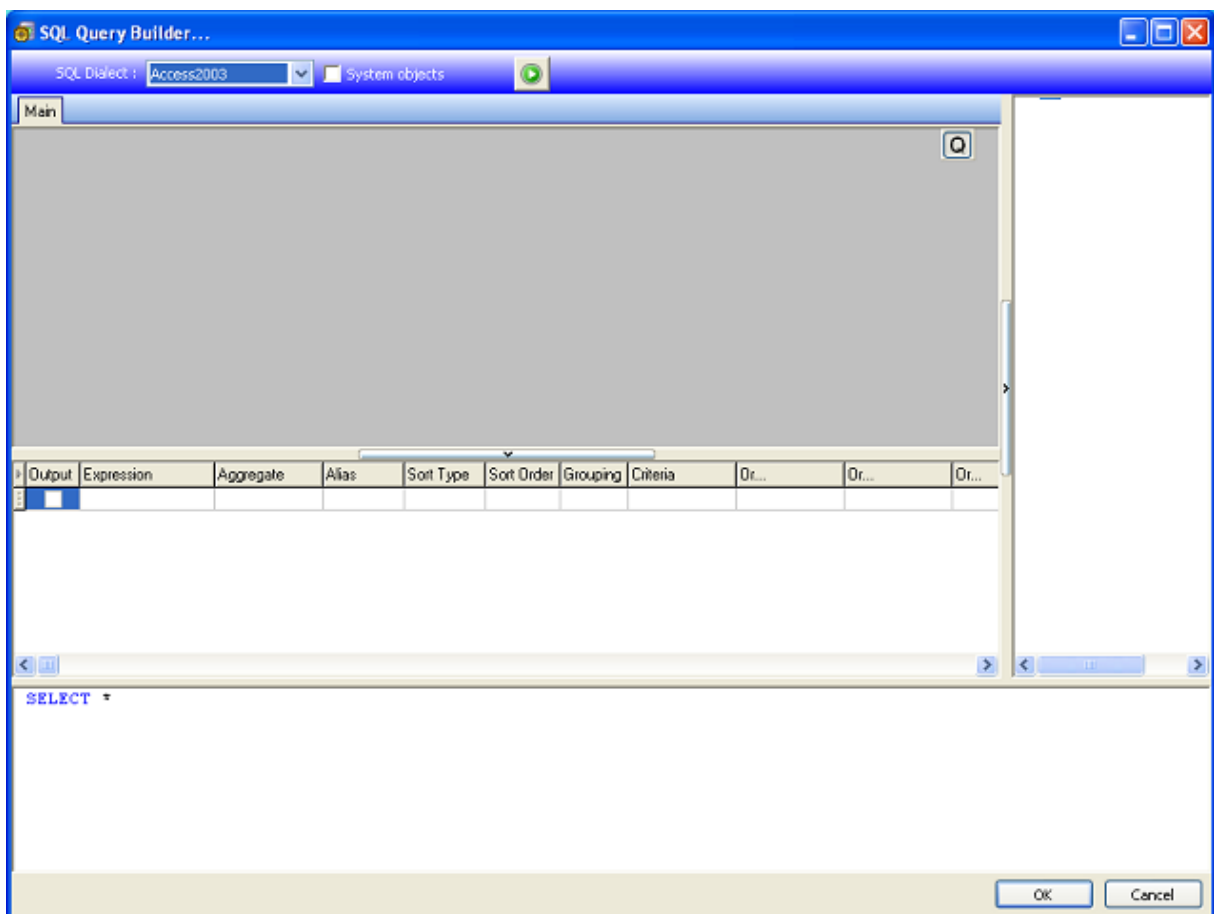
4.  をクリックすると、結果が表示されます。


高度な SQL 作成モード

2. **SQL** モードを選択します。
3. 編集フィールドに、SQL 形式でクエリーを入力します。

または

SQL クエリービルダー ボタンをクリックし、クエリービルダーにアクセスします。これにより、SQL データベースクエリーを構築する際に、簡単に使用できるインターフェースをご利用いただけます。アプリケーションで、新しいリクエストを作成したり、既存のリクエストをグラフィカルに表示できます。



4.  をクリックすると、結果が表示されます。

作成されたデータソースは、データベースのフィールド名がついています。
ナビゲーションバーがワークスペースに表示されます。

5. 終了したら、**OK** ボタンをクリックします。

テーブル参照 データソース

テーブル参照 データソースの値は、現在のドキュメントにリンクされていないデータベースで実行した検索の結果となります。

検索は、データベース内のテーブルの 1 つ以上のフィールドに対して実行されます。与えた検索条件に一致するデータがあれば、検索で見つかったレコードフィールド(「結果フィールド」と呼ばれる)の 1 つから抽出されます。


コマンド: データソース > テーブル参照 > 追加

1. データソースの選択リストから データソースを選択します。

注意: 新しいデータソースを作成するには、**新規作成** ボタンをクリックします。これにより、ウィザードを使用するか、ODBC または OLEDB データソースを選択することができます。

2. デフォルトでは、**標準作成モード**が有効ですが、テーブル参照を実行するために、**高度な作成モード**である SQL を使用することもできます。

標準作成モード

3. **選択テーブル** リストにおいて、検索を実行するテーブルを選択します。
4. **結果フィールド** リストにおいて、検索結果として値を取得するフィールドを選択します。
5.  をクリックして行を追加します。
6. 検索条件として使用するキーフィールドを選択します。
7. 検索条件のデータを保持している、現在のドキュメントの変数を選択します。
8. **テストボタン**をクリックして結果を表示します。

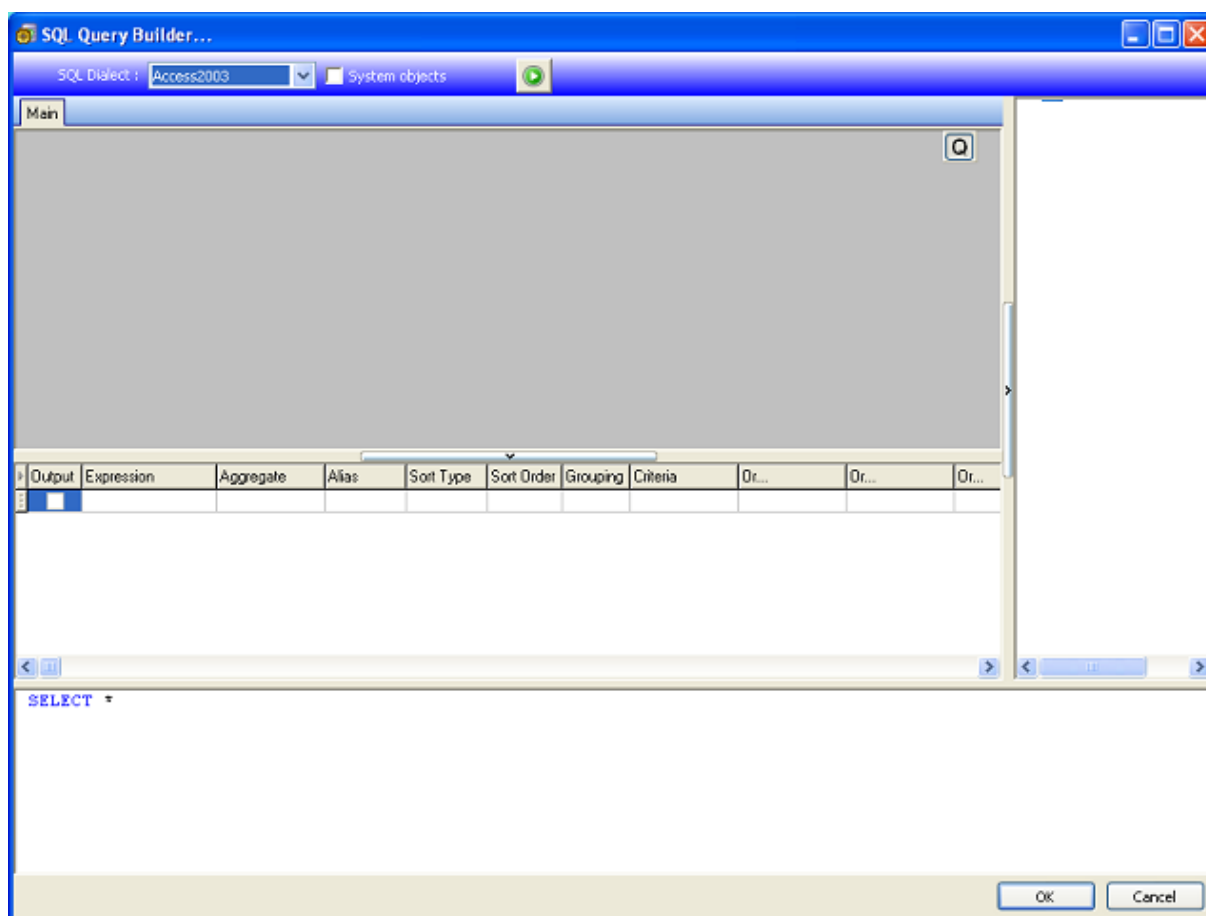
高度な SQL 作成モード

3. **SQL モード**をクリックします。

4. 編集フィールドに、SQL 形式でクエリーを入力します。

または

SQL クエリービルダーボタンをクリックし、クエリービルダーにアクセスします。これにより、SQL データベースクエリーを構築する際に、簡単に使用できるインターフェースをご利用いただけます。アプリケーションで、新しいリクエストを作成したり、既存のリクエストをグラフィカルに表示できます。



5. テストボタンをクリックし、クエリーダイアログボックスに結果を表示します。

日付データソース

コマンド: データソース > 日付 > 追加

日付データソースは、コンピューターまたはプリンターのシステム日付から生成されます。これを使用すると、事前に定義された形式で、日時を表示することができます。値は各印刷セッションが始まる時に自動的に更新されます。

現在の日付または時間を、ドキュメントに挿入することができます。現在の日時に固定値を加減算することで先日付や後日付を印刷することもできます。

日付データソースのプロパティを定義

1. 日付タブにおいて、希望する日付形式を選択します。
2. 日付フォーマットが、プレビューゾーンに表示されます。
3. **OK** ボタンをクリックします。

デモンストレーション

日付の挿入

1. ラベルを開きます。
2. 日付データソースを追加し、datefab と名前を付けます。
3. 日付ダイアログボックスに日付を作成します。yy/mm/dd 形式で作成します。
4. 日付形式リストの一番下の「ユーザー定義」を選択します。
5. リスト下左の入力欄に「yy/mm/dd」と入力します。
または、
リスト下右のコンボボックスで書式を選択し、"/"記号で連結します。
6. **OK** ボタンをクリックします。
7. 日付 (datefab) を選択し、ワークスペースにドラッグ & ドロップします。

8. コンテキストメニューで、テキストを選択します。

カウンター データソース

コマンド: データソース > カウンター > 追加

カウンター データソースは、コンピューターまたはプリンターのいずれかで計算されたデータにより生成されます。

データソースの内容は、印刷が進むにつれて初期値と増分値に従って変化します。

カウンター データソースのプロパティを定義

1. カウンターの種類を選択します。リストに表示されたもの以外のカウンターの種類を使用したい場合は、**ユーザー定義**を選択し、**カスタマイズした文字列並び**を入力します。
2. **増分ボックス**に値を入力します。デフォルトは、**+1** です。
3. **現在の値**ボックスに開始値を入力します。デフォルトは、**0** です。
4. **最小値／最大値**を入力します。デフォルトは、0～9999 です。
5. **OK** ボタンをクリックします。

デモンストレーション

カウンターの作成

1. ラベルを開きます。
2. カウンターを作成し、**namcd** と名前を付けます。
3. コンテキストメニューで、**プロパティ**を選択します。
4. カウンターの種類として、**10 進**を選択します。
5. **増分値**ボックスに"1"を入力します。

6. **現在の値**ボックスに"1"を入力します。
7. **OK** ボタンをクリックします。
8. カウンター (namcd) を選択し、ワークスペースにドラッグ & ドロップします。
コンテキストメニューで、**文字**を選択します。
9. それを右クリックし、コンテキストメニューで、**プロパティ**を選択します。
10. 以下のテキストの特徴を選択します。
フォント: Arial
高さ: 3.20 mm

数式データソース

数式データソースは、演算子、定数、データソース、予約変数、式および関数の組み合わせにより生成されます。データは数字または英数字となります。

ドキュメント内で演算を行う場合、まず、数式データソースを作成しなければなりません。

このデータソースには、特定の式に関して必要な関数を定義することができるダイアログボックスがあります。

数式データソースのプロパティを定義

コマンド: データソース > 数式 > 追加

1. **編集**ボックスに直接、式を入力します
または
必要な要素を左下のリストから選択し、**挿入**をクリックします。
2. **テスト**ボタンをクリックすると、シンタックスが正しいかどうかを確認できます。エラーが発生した場合、画面の指示に従って、必要なすべての変更を行ってください。
3. **OK** ボタンをクリックします。

ヒント: ダブルクリックにより要素を挿入することができます

注意: 式に使用される変数に、以下の文字の1つを含む名前がある場合、それを括弧 {} に含めなければいけません。

&+ - * / < > = ^ % , ! \ "

注意: テストボタンをクリックすると、式をチェックすることができます。メッセージに式の値が表示される場合、式が正しいこととなります。値が正しくない場合は、画面の指示に従って必要な変更を行ってください。取得した値が切れている場合、出力タブに指定される最大長を変更してください。

デモンストレーション: 簡単な式の作成

製品の価格を表示

生産ラベルには、重量と1キログラムあたりの価格から計算した値を製品の価格として表示します。

1. ラベルを開きます。WEIGHT と PRICEPERKG の2つの変数を作成する必要があります。
2. WEIGHT 変数: ローカル値として 788 (製品の重量 788 g)を入力し、プレフィックスボックスに「重量をグラムで入力してください」を入力し、OK ボタンをクリックします。
3. PRICEPERKG 変数: 変数のローカル値として 15.70 (価格/kg FF15.70)を入力し、プレフィックスボックスに「1キログラムあたりの価格を入力してください」を入力して、OK ボタンをクリックします。
4. 式を追加し、PRICE と名付けます。
5. 式 $WEIGHT * PRICEPERKG / 1000$ を入力し、OK ボタンをクリックしてください。
6. ドキュメントを保存します。

デモンストレーション: 警告メッセージを表示するために「Warning」式の変数を追加

下記のシーケンスでは、ユーザーに警告メッセージを表示し、Total_Weight 共有変数の値が 1,000kg を超えていることを伝える場合の式を作成します。

重量の値が 1,000kg を超える場合、「ご注意ください！エラー！総重量が最大値を超えています！」というメッセージを表示します。

1. ラベルを開きます。
2. 数式を作成し、「Warning」と名付けます。

3. **数式** のダイアログボックスにおいて、以下の式を入力します。
if(Total_Weight>1000、"ご注意ください:総重量が最大値を超えています!", "").
4. **出力タブ**では、**最大の長さ**に 50 を入力し、**OK** ボタンをクリックします。
5. 変数をテキストとしてラベル内に設置します。
6. **テキスト** のダイアログボックスでは、フォントに **Scalable** を、**高さ**に 12.70 mm を設定します。
7. **パラグラフ** タブでは、**自動行送り** オプションにチェックをつけ、水平位置合せで**中央揃え**を選択します。

IF ファンクションに関する情報

指定された条件が TRUE の場合には、ある値を返し、FALSE の場合には別の値を返します。

IF ファンクションを使用して、値や式に関する条件テストを行います。

シンタックス

if("expr", "val_if_true", "val_if_false") “*expr*” が値または式を表す場合、その結果は TRUE または FALSE

val_if_true は、“*expr*”が TRUE の場合に返される値です。*val_if_true* 引数は別の式とすることもできます。

val_if_false は、“*expr*”が FALSE の場合に返される値です。*val_if_false* 引数は別の式とすることもできます。

フォーム データソース


コマンド: データソース > フォーム > 追加

フォームデータソースには、作成した変数のリストが含まれます。これらのデータソースは、キーボードを使用して、フォームに直接データを入力し、生成します。

フォームの表示

フォームを使用すると、デザイン中、または通常、印刷前にデータを入力することができます。

フォームを表示するには

1. フォーム 変数を含むラベルを開きます。
2. ツールバーの  ボタンをクリックします。

デフォルトでは、ワークスペースで、ラベルとフォームを別々に表示することができます。

ラベルとフォームを一緒に表示するには

1. フォームのタブをワークスペースの右側にドラッグします。
2. ラベルとフォームの両方が表示されます。

ラベルまたはフォームを変更すると、自動的にもう一方のデータが更新されます。

フォームのカスタマイズ

フォームのカスタマイズ・ダイアログボックスで、色やフォントなどを変更し、フォームの外観をカスタマイズすることができます。

ダイアログボックスにアクセスするには

- 表示 > フォームのカスタマイズを選択します。
または
- マウスの右クリックでフォームを選択し、フォームのカスタマイズを選択します。
または
- フォーム表示でウィンドウの背景をダブルクリックします。

データをフォームに入力する順序を変更

データをフォームに入力する順序を変更することができます。

手順は以下のとおりです。


1. マウスを用いて、フォームを選択します。
2. 右クリックします。
3. **タブ順序の開始**を選択します。デフォルトのナンバリングが表示されます。
4. フォームに最初に表示したいフィールドの数字をクリックします。確認すると、数字が緑に変わります。
5. ステップ 4 を繰り返し行い、並べ替えを続けます。
6. 選択を確認するには、右クリックし、**タブ順序の検証**を選択します。最初のフィールドを確認すると、フィールドの順序が自動的に確認されます。その後、ナンバリングがフォームから消えます。

注意: 変更をキャンセルすることもできます。フォームを右クリックし、**タブ順序の破棄**を選択します。

フォーム データソースのプロパティを定義

コマンド: データソース > フォーム > フォーム変数名 > プロパティ

1. フォームタブをクリックします。
2. フォームに表示したいプロンプトを入力します。

3. 必要に応じて入力形式と最小の長さを定義することができます。
4. **選択リスト**から **<ローカル>** を選択し、フォーム画面で選択させる値を作成することができます。  をクリックすると、**選択リスト** のダイアログボックスにアクセスします。
5. 出力タブでは、出力形式、最大の長さ、サフィックスとプレフィックスを定義できます。
6. **OK** ボタンをクリックします。

注意: 入力タブで空のローカル値を定義し、印刷後に初期化ボックスにチェックをつけると、各印刷ジョブの後に変数の値が空値に設定されます。

デモンストレーション

フォーム データソースの作成

1. ラベルを開きます。
2. **フォームデータソース**を追加し、productname と名前を付けます。
3. **ローカル値**として「チーズ」を入力します。
4. **フォームタブ**では、**最小の長さ**に「1」を入力します。
5. **出力タブ**をクリックし、**最大の長さ**に「20」を入力します。
6. **フォームデータソース**を選択し、ワークスペースにドラッグ & ドロップします。
7. コンテキストメニューで、**文字**を選択します。

自由データソース

コマンド: データソース > 自由 > 追加

自由 データソース には、作成したデータソースのリストが含まれます。これらのデータソースは、作成した時に指定されていないデータにより生成されます。自由データソースを使用して、中間データソースを作成することができます。

自由 データソースのプロパティを定義

1. 入力タブで、以下のローカル、共有、またはファイルからいずれかを選択します。

ローカル を選択した場合は、ボックスに変数値を入力します。これは、変数の初期値となります。

または

共有 を選択した場合は、ボックスに変数値を入力します。OK ボタンをクリックします。

または

ファイルから を選択した場合は、必要なファイルを選択します。

または


Port Watch を選択した場合は、USB やイーサネットに接続されているデバイスを使用することができます。自由変数を作成して、Port Watch タイプを選択することにより、Port Watch 変数を作成することができます。

2. 出力タブで、出力形式、最大の長さ、サフィックスとプレフィックスを定義することができます。
3. OK ボタンをクリックします。

デモンストレーション

自由データソースの作成

1. ラベルを開きます。
2. 自由 データソースを作成し、"ref"と名前を付けます。


3. データソースをテキスト形式でラベルに挿入します。
4. 印刷時にこのデータソースを表示しない場合は、これを選択し、**オブジェクトツールバー**で  をクリックします。

変数オブジェクトの作成

変数オブジェクトとは、作成時には値が定義されていない要素から構成される、テキスト、バーコード、または画像タイプのオブジェクトです。複数のオブジェクトを1つの変数に関連付けることができます。

これらの要素の値は、印刷する時に、さまざまなデータソースにより提供されます。

- フォームへの直接的なキーボード入力(フォーム データソース)
- 外部ファイルまたはデータベースからのインポート(テーブル参照または データベース データソース)
- コンピューターにより計算されるフィールド(数式、カウンター および日付データソース)

注意: データソースビューでは、選択されたオブジェクトに関連付けられた変数が赤い矢印  で示されます。

既存データソースにリンクした変数オブジェクトを作成

以下を使用して、ドキュメントにおいて変数オブジェクト(バーコード、画像、テキスト)をすばやく簡単に作成することができます。

- 作成ツールバー
または
- オブジェクトメニュー

以下のオプションのいずれかにより、オブジェクトを作成することができます。

- 直接モードで作成:
 1. ドキュメントに挿入したいオブジェクト(バーコード、画像、テキスト)をデザインツールバーで直接クリックします。
 2. ラベル上の配置したい場所をクリックします。
作成ウィザードがデフォルトで実行されます。実行されない場合は、オブジェクトをダブルクリックし、プロパティダイアログボックスを開きます。

3. **データソース**タブをクリックします。
4. **変数**を選択します。
5. オブジェクトに指定したい変数を選択します。

- **ガイドモードで作成:**

1. デザインツールバーの対象オブジェクトボタン右横の▼ボタンをクリックします。実行可能なアクションを示すサブメニューが表示されます。
2. 既存データソースを使用して、変数オブジェクトを作成するには、以下のいずれかの方法を選択します。
 - **既存のデータソースを使用** を選択してから、該当する変数を選択します。
または
 - **ウィザード**を選択します。この方法では、変数オブジェクト作成プロセスをステップごとに案内します。
3. ラベル上で配置したい場所をクリックします。

注意: 作成ウィザードは、デフォルトで有効となっています。これを無効にするには、**ツール > 設定 > ウィザード** を選択します。詳細は、「ウィザードの有効化」を参照してください。

新しいデータソースにリンクした変数オブジェクトを作成

以下を使用して、すばやく簡単に、ドキュメントにおいて変数オブジェクト(バーコード、画像、テキスト)を作成することができます。

- **作成ツールバー**
または
- **オブジェクトメニュー**

以下のオプションのいずれかにより、オブジェクトを作成することができます。

- **直接モードで作成:**

1. ドキュメントに挿入したいオブジェクト(バーコード、画像、テキスト)をデザインツールバーで直接クリックします。

2. ラベル上の配置したい場所をクリックします。

作成ウィザードがデフォルトで実行されます。実行されない場合は、オブジェクトをダブルクリックし、プロパティダイアログボックスを開きます。

3. データソースタブをクリックします。

4. 変数を選択します。

5. オブジェクトに指定したい変数を選択し、右クリックし、追加を選択します。
または

新規データソースをクリックし、追加したい変数を選択します。

• **ガイドモードで作成:**

1. デザインツールバーの対象オブジェクトボタン右横の▼ボタンをクリックします。実行可能なアクションを示すサブメニューが表示されます。

2. 新しい変数を使用して、変数オブジェクトを作成するには、以下のいずれかの方法を選択します。

- 新規データソースを選択します。

または

- ウィザードを選択します。この方法では、変数オブジェクト作成プロセスをステップごとに案内します。

3. ラベル上の配置したい場所をクリックします。

注意: 作成ウィザードはデフォルトで有効となっています。これを無効にするには、ツール > 設定 > ウィザードを選択します。詳細は、「ウィザードの有効化」を参照してください。


強力な印刷エンジン

本製品は、自動認識ソフトウェア市場において、これまでで最も幅広いプリンター（感熱式、熱転写およびインクジェット）に対応し、強力で使いやすい作成ツールと印刷エンジンを提供しています。

単独のラベルや一連のラベル、あるいは同じラベルを複数印刷するなど、あらゆる場面で使用するすべての印刷コマンドが、印刷ダイアログボックスにまとめられています。

ドキュメントの印刷

ドキュメントを印刷するには：

1. **ファイル > 印刷** を選択すると、印刷ダイアログボックスにアクセスします。
 ボタンまたは **F6** を押すこともできます。
2. **ラベル** テキストボックスで、印刷するラベル数を入力します。
3. **OK** ボタンをクリックします。

実践ワークショップ 1 - ラベルシリーズとラベルコピー

まず、シリーズでのラベルと各ラベルのコピーを区別しましょう。

注意:ラベルにカウンターが含まれない場合、印刷ダイアログボックスには、各ラベルの部数フィールドが表示されず、ラベルフィールドのみが表示されます。この場合、それは同じ目的で使用されます。

シリーズと各ラベルのコピーの違いを明確にするために、2種類の異なるタイプのカウンターを含むラベルを検討し、印刷ダイアログボックスを別々の方法で設定します。

テストラベルの作成

2つのカウンターを作成します。

- 単純なカウンター。値が 10 になるとリセットされます。
 - 種類:10 進数
 - 増分:+1
 - 最小値:0
 - 最大値:10
- ラベル間で値が引き継がれる ISO カウンター。この場合も、値が 10 になるとリセットされます。
 - 種類:10 進数(ISO カウンター)
 - 増分 +1
 - 最小値:0
 - 最大値:10

最初のカウンターを **NumLabel**、2つめのカウンターを **ISO Count** と名付けます。NumLabel は、特定のラベルを識別するのに対して、ISO Count は、印刷したラベルの合計をカウントします。

シリーズでのラベル

この例で、一連の 10 枚のラベルを印刷します。

1. 印刷ダイアログボックスで、以下の値を入力します。

- シリーズを構成するラベル数: 10

これは、シリーズで 10 枚の異なるラベルがあることを表します。

2. 印刷ボタンをクリックします。

印刷された結果は、10 枚のラベルが印刷され、2 つのカウンターが同じ値となります。

各ラベルのコピー

次に、一連の 5 枚のラベルを印刷しますが、今回はそれぞれ 2 つのコピーを印刷します。

1. 印刷ダイアログボックスに以下の値を入力します。

- シリーズを構成するラベル数: 5
- ラベルの複写枚数: 2

2. 印刷ボタンをクリックします。

印刷された結果は、10 枚のラベルが印刷され、NumLabel は 1~5 のラベルが各 2 枚ずつ印刷され、ISO Count は 1~10 のラベルが印刷されます。

各ページのコピー



先ほどご覧いただいたように、同じラベルを複数印刷することができます。次の例では、同じページを複数印刷する方法を見ていきます。プリンターがページをどのように認識するかを理解することが必要です。

ページは、プリンタードライバーを設定する時に指定されるパラメーターによって決まります。取得される結果は、オフィスプリンターで印刷するか、熱転写プリンターで印刷するかによって、全く異なる場合があります。熱転写プリンター

で主に使用される連続ロール紙でページを視覚化するのは非常に難しいかもしれません。

さらに、印刷メディアの寸法やラベルのサイズによって、ページの寸法がラベルに対応する場合があります。この場合、ページ部数がラベル部数と同じになります。

ページ形式とラベルのサイズは、ページ設定ダイアログボックスで定義します。

1. カウンターを含むラベルを開きます。
2. **ファイル > プリンター選択**を選択します。
3. Windows オフィスプリンターを選択します。
4. 紙のフォーマットが **A4** であることを確認し、**OK** ボタンをクリックします。
5. **ファイル > ページ設定**を選択するか、をクリックします。
ページ設定ダイアログボックスが表示されます。
プレビューにより、印刷時のページのイメージを確認できます。
6. ダイアログボックスを閉じます。
7. をクリックします。
8. 以下の値を入力します。
 - シリーズを構成するラベル数: 8
 - ページの複写枚数: 2
9. **印刷ボタン**をクリックします。以下のような結果となります。


NumLabel: 1	NumLabel: 2	NumLabel: 1	NumLabel: 2
NumLabel: 3	NumLabel: 4	NumLabel: 3	NumLabel: 4
NumLabel: 5	NumLabel: 6	NumLabel: 6	NumLabel: 6
NumLabel: 7	NumLabel: 8	NumLabel: 7	NumLabel: 8

実践ワークショップ 2 – マージ印刷

マージ印刷は、ラベルがデータベース (ASCII、ODBC または OLEDB) とリンクしている場合のみ、ご利用いただけます。

マージ機能を使用すると、データベースに含まれるすべてのレコードを印刷できます。

マージ印刷を実行するには

1. **ファイル > 印刷** を選択して、印刷ダイアログボックスにアクセスします。
または
 ボタンをクリックします。
2. **ラベル** テキストボックスに、印刷するラベル数を入力します。
3. **データベース** タブを選択し、レコードフィールドで、**全てのレコードを印刷** を選択します。
4. **OK** ボタンをクリックします。

実践ワークショップ 3 -フォームを使用した印刷

印刷する直前に、オペレーターが変数データを入力することが必要な場合がよくあります。このアプリケーションでは、速くて簡単なデータ入力方法である、フォーム機能をご利用いただけます。

フォーム機能を使用するには、予めラベルにフォーム変数を作成しておきます。また、フォームのカスタマイズ・ダイアログボックスの印刷時の表示フォームで「1 ラベルごと」を選択しておきます。

フォームを使用した印刷

1. **ファイル > 印刷** を選択するか、**F6** キーを押します。
2. **ラベルフィールド**で、「2」を入力します。
3. 印刷が開始されます。
フォームが表示され、印刷するデータを入力することができます。
4. 例えば、「**Smith**」と「**51**」を入力し、**OK** ボタンをクリックします。
最初のラベルが印刷されると、フォームが再び表示されます。
5. 例えば、「**Mullang**」と「**52**」を入力し、**OK** ボタンをクリックします。

注意: フォームはシリーズに含まれるラベルごとに表示されます。フォームのカスタマイズ・ダイアログボックスで「1シリーズごと」オプションを選択すると、フォームはラベルシリーズの印刷が開始される時に一度だけ表示されます。

まとめ

印刷ダイアログボックスの表示は状況によって異なります	ラベルにカウンターが含まれる場合は、シリーズを構成するラベル数が表示されます。これはシリーズごとに異なったラベル数、つまりカウンターの増減値を意味します。ラベルコピーを使用すると、印刷する同じラベルの部数を指定できます。ラベルにカウンターが含まれない場合は、ラベルが表示されます。これは印刷枚数と同意になります。
ページコピー	ページコピーは、ラベルに ISO カウンターが含まれず、ページに 1 つ以上のラベルが含まれる場合のみに実行できます。
マージ印刷	このオプションは、ラベルがデータベースに接続されている場合のみに利用可能で、すべてのレコードを印刷することができます。
フォームを使用した印刷	フォームを使用すると、オペレーターは印刷直前にキーボードでデータを入力することができます。

トラブルシューティング

以下の表は、印刷中にもっともよく発生する問題をリスト化し、その解決に役立つ方法を説明します。

問題	原因	解決法
全く印刷できない	プリンターのプラグが、電源コンセントに接続されていない。	プリンターのプラグを電源コンセントに接続してください。
	パラレルリンクの場合： プリンターが、パラレルリンクに設定されていない。	プリンターのコントロールパネルで、この設定が行われていることを確認してください（メーカーのガイドブックをご覧ください）。
	シリアルリンクの場合： シリアル通信設定に誤りがある。	PC とプリンター間の通信設定が同じであることを確認してください（プリンターで必要なシリアル通信設定については、メーカーのガイドブックをご覧ください）。
	シリアルケーブルが適切ではない。	ケーブルが、プリンターの仕様に適合していることを確認してください（メーカーのガイドブックをご覧ください）。
	シリアルとパラレル両方の場合： ケーブルが間違ったポートに接続されている。	接続をチェックしてください。
ページが印刷できない	感熱式印刷の場合： 印刷メディアが間違った方法で挿入されている（印刷ヘッドが、紙の逆の面に接している）。	メディアを正しい方向に再度挿入してください。
	熱転写式印刷の場合： リボンが挿入されていない、または正しく挿入されていない。	リボンをチェックし、必要に応じて調整してください（メーカーのガイドブックをご覧ください）。

	必要な印刷モードが、プリンターで選択されていない。	印刷モード(感熱式または熱転写式)がプリンター、またはプリンター設定ダイアログボックスで正しく選択されていることをチェックしてください(メーカーのガイドブックをご覧ください)。
グラフィック・オブジェクト(画像、Windows フォント、バーコードなど)が印刷できない	プリンターのメモリーが不足している。	次回の印刷時のみ、メモリーをクリアするオプションにチェックを入れてください。それでも問題が続くようでしたら、画像に割り当てられたメモリー容量をチェックしてください(プリンタードライバーのイメージタブ)。
	プリンターに十分なメモリーがない。	メモリーカードを追加するか、RAMを増設し、プリンターのメモリー容量を増加してください(メーカーのマニュアルをご覧くださいか、プリンターを購入されたディーラーにお問い合わせください)。
	一部のプリンターでは、わずかな数ミリでも印刷可能なエリアからはみ出した場合にオブジェクトを認識しません。	ラベルのオブジェクトの位置を調整してください。
熱転写プリンターが紙詰まりする	使用する印刷メディアが、ページ設定ダイアログボックスで定義されたものと一致しない(連続紙、またはラベル間ギャップ)。	ページ設定で正しい印刷メディアが選択されているかどうかをチェックしてください(連続紙、ラベル間ギャップ)。

式の規約

型と暗黙の型変換

このソフトウェアの変数には、一般のプログラミング言語にあるような型（文字型、数値型、ポインター型など）の明確な区別はなく、任意の時点で任意の型を代入できます。ソフトウェアは、代入した値を可能な限り適切な型に変換して処理を実行します。

命名規則

変数名は、英字で始まる半角英字と数字だけで構成される必要があり、少なくとも先頭から 20 文字または内部メモリーの許す範囲で識別されます。マルチバイト文字列、空白、記号文字などを使用することはできません。命名規則から逸脱した場合の動作は未定義です。

大文字と小文字は区別されません。特定の型と解釈できるデータのみを受け付けたい場合は、書式指定文字を使用して入力値を限定するか、変換関数を使用して明示的に型変換を行ってください。

関数の評価順序と副作用完了点

関数と変数の評価順序は必ずしも意図した通りになるとは限りません。一般のプログラミングでは、文は先頭から順次実行されますが、このソフトウェアでは関数の実行順序を決定するコードは存在しません。

以上の点を要約すると、関数オブジェクトには以下の注意点ががあります。

- 関数中の式は常に左端から解析されますが、個々の関数オブジェクトがどのような順序で呼ばれるかは不定です。個々の演算子の優先順位は、演算子の項を参照してください。
- 式の副作用完了点は、常に式末にあります。
- 関数は再帰呼び出しを行うことはできません。行った場合の結果は未定義です。
- 自由変数を除く変数間の相互参照結果は不定です。変数間で値を参照する場合は、必ず自由変数を経由しなければなりません。

演算子

演算子には優先順位があります。優先順位は代数学的に自然な表記になるように決められています。

優先順位と違う順序で評価する場合は、式の特定の要素を括弧"()"で囲まなければなりません。

算術演算子	例	意味	優先順位
^	$5 \wedge 2 = 25$	べき乗	1
%	$20 \% 3 = 2$	剰余	2
*	$5 * 2 = 10$	乗算	3
/	$6 / 3 = 2$	除算	4
+	$20 + 5 = 25$	加算	5
-	$20 - 5 = 15$	減算	6

連結演算子	例	意味	優先順位
&	“S1” & “S2” = “S1S2”	文字列の連結	7

比較演算子	例	意味	優先順位
=	Var0 = Var1	等しい	8
>	Var0 > Var1	大きい	9
<	Var0 < Var1	小さい	10
>=	Var0 >= Var1	以上	11
<=	Var0 <= Var1	以下	12
<>	Var0 <> Var1	等しくない	13

- $4 + 5 * 6 - 9 / 2$

最初に乗算が実行され(5 * 6)、除算(9 / 2)、加算(4 + 30)、最後に減算が実行されます。

優先順位がある場合とない場合は、結果はまったく異なります。計算が先頭から順に実行された場合の結果は 22.5 であるのに対し、実際の計算結果は 29.5 です。

- $(4 + 5) * (6 - 9) / 2$

2つの演算子が同じ優先順位を持つ場合、計算は左から右に実行されます(左結合)。括弧によって特定の計算を分離することができます。この計算の結果は、29.5 ではなく、-13.5 になります。

この例題の結果が四捨五入されている場合は、式が入力されている数式ダイアログボックスの出力タブにある、「数値書式で整形」を選択してください。(初期状態では四捨五入をして小数点以下を切り捨てる設定になっています。)

予約語

いくつかの文字または単語は予約語なので、変数名やリテラルとして使用することができません。予約語には大文字／小文字の区別はなく、その予約語で始まる単語自体が禁止されています。

例えば、MaxSize は、ODBC に起因する予約語 MAX と衝突するので使用することはできません。

ソフトウェア固有の予約語

@で始まる文字列

@で始まる文字列は、バーコードの特殊データ文字列または制御変数名として予約されています。

数式変数の関数名と同じ文字列

数式変数の関数名と同じ文字列は使うことができません。

ODBC に起因する予約語

ソフトウェアではなく、ODBC データベースで使用されている SQL 関数に起因する予約語が多数あります。次ページの予約語リストを参照してください。

ABSOLUTE	DAY	INCLUDE
ADA	DEALLOCATE	INDEX
ADD	DEC	INDICATOR
ALL	DECIMAL	INITIALLY
ALLOCATE	DECLARE	INNER
ALTER	DEFERRABLE	INPUT
AND	DEFERRED	INSENSITIVE
ANY	DELETE	INSERT
ARE	DESC	INTEGER
AS	DESCRIBE	INTERSECT
ASC	DESCRIPTOR	INTERVAL
ASSERTION	DIAGNOSTICS	INTO
AT	DICTIONARY	IS
AUTHORIZATION	DISCONNECT	ISOLATION
AVG	DISPLACEMENT	JOINKEY
BEGIN	DISTINCT	LANGUAGE
BETWEEN	DOMAIN	LAST
BIT	DOUBLE	LEFT
BIT_LENGTH	DROP	LEVEL
BY	ELSE	LIKE
CASCADE	END	LOCAL
CASCADED	END-EXEC	LOWER
CASE	ESCAPE	MATCH
CAST	EXCEPT	MAX
CATALOG	EXCEPTION	MIN
CHAR	EXEC	MINUTE
CHAR_LENGTH	EXECUTE	MODULE
CHARACTER	EXISTS	MONTH
CHARACTER_LENGTH	EXTERNAL	MUMPS
CHECK	EXTRACT	NAMES
CLOSE	FALSE	NATIONAL
COALESCE	FETCH	NCHAR
COBOL	FIRST	NEXT
COLLATE	FLOAT	NONE
COLLATION	FOR	NOT
COLUMN	FOREIGN	NULL
COMMIT	FORTRAN	NULLIF
CONNECT	FOUND	NUMERIC
CONNECTION	FROM	OCTET_LENGTH
CONSTRAINT	FULL	OF
CONSTRAINTS	GET	OFF
CONTINUE	GLOBAL	ON
CONVERT	GO	ONLY
CORRESPONDING	GOTO	OPEN
COUNT	GRANT	OPTION
CREATE	GROUP	OR
CURRENT	HAVING	ORDER
CURRENT_DATE	HOURLY	OUTER
CURRENT_TIME	IDENTITY	OUTPUT
CURRENT_TIMESTAMP	IGNORE	OVERLAPS
CURSOR	IMMEDIATE	PARTIAL
DATE	IN	PASCAL

PLI	VALUES
POSITION	VARCHAR
PRECISION	VARYING
PREPARE	VIEW
PRESERVE	WHEN
PRIMARY	WHENEVER
PRIOR	WHERE
PRIVILEGES	WITH
PROCEDURE	WORK
PUBLIC	YEAR
RESTRICT	
REVOKE	
RIGHT	
ROLLBACK	
ROWS	
SCHEMA	
SCROLL	
SECOND	
SECTION	
SELECT	
SEQUENCE	
SET	
SIZE	
SMALLINT	
SOME	
SQL	
SQLCA	
SQLCODE	
SQLERROR	
SQLSTATE	
SQLWARNING	
SUBSTRING	
SUM	
SYSTEM	
TABLE	
TEMPORARY	
THEN	
TIME	
TIMESTAMP	
TIMEZONE_HOUR	
TIMEZONE_MINUTE	
TO	
TRANSACTION	
TRANSLATE	
TRANSLATION	
TRUE	
UNION	
UNIQUE	
UNKNOWN	
UPDATE	
UPPER	
USAGE	
USER	
USING	
VALUE	



United States
1-414-837-4800

France
33-562-601-080

Germany
49-6103-30026-0

Asia
65-6570-4923

Japan
81-45-461-3603

Copyright 2013 Teklynx Newco SAS. All rights reserved. TEKLYNX, CODESOFT, LABEL ARCHIVE and SENTINEL are trademarks or registered trademarks of Teklynx Newco SAS or its affiliated companies. All other brands and product names are trademarks and/or copyrights of their respective owners.

www.teklynx.com | www.teklynx.eu

